

会 議 記 録

1. 会 議 令和7年度第2回酒田市障がい者差別解消支援地域協議会
2. 日 時 令和8年2月2日（水）15時00分～16時00分
3. 場 所 酒田市役所 第一委員会室
4. 出席者 出席者名簿のとおり 委員15名中14名出席

5. 会長あいさつ

6. 協 議 会長 議事進行

(1) 障がいを理由とする差別の解消に係る今年度の取り組み状況について（事務局説明）

(会長)

委員の皆さんから、ご意見、ご質問を伺いたい。

(会長)

酒田市の障がい者雇用の取り組み状況、また、どのような工夫をして雇用を獲得、維持されているか教えていただきたい。

(事務局)

主に人事課が障がい者雇用を確保するために取り組んでいる。今年は残念ながら障がい者雇用率の達成まで至っておらず、不足している状況である。昨年度から、障がい者雇用のチームを作り、各課から仕事の切り出しをして、就労支援員が調整等を行う方法で、現在いろいろな業務を請け負っている。例えば、封入作業、ラベル張り、印刷業務、管内の施設の郵便物の送付等を担っている。

今後、新たに雇用の確保に向けた取り組みも検討していると聞いている。引き続き雇用の確保を図っていききたい。

(2) その他（情報交換）（事務局説明）

(委員)

事業の一つとして紹介させていただく。昨年11月に県、県社会福祉協議会、市、市社会福祉協議会が主催する第75回山形県民福祉大会が希望ホールを会場に、県内の福祉関係者の方たちにおいでいただき、同時に要約筆記、手話通訳者を付けて開催した。県知事、市長も出席された。また、庄内の7事業所の授産施設の商品を販売させていただいたが、非常に好評であった。

(委員)

当法人の特別養護老人ホームに、毎年、市内中学生がボランティアキャンプに10名ほどの生徒が

参加している。夏休みを活用して、現在の福祉の理解や将来の自分の仕事の選択肢として、視野に入れながら、医療、福祉を学ぶ機会の提供として行っている。これがきっかけとなり、私の職場に勤務している方も何人かいる。共生社会を進めるため、高齢者施設、障がい者施設なども活用し、事業に加えてはどうか。子どもたちの教育として面白いのではないか。

また、東北公益文科大学に福祉課程があるが、例えば大学生の活用や、小・中・高校生と連携して、共生社会関連の事業の企画をされてはどうか。酒田市では、民生委員や地域の協力を得ながら、子どもたちを育てていく、将来を担う人づくりとして、障がい者差別の解消などの教育をやっていくこともあっていいと思う。また、当法人では、ボランティアキャンプのほかに、老人保健施設と共同して中学生に向けて、車椅子の操作方法の講習も行っている。このような体験を通して、福祉に関わる子供たちも増えていくのかと感じている。関連して、酒田市の高校生の進学先、医療系、福祉系など、把握されていれば情報提供をいただきたい。

また、心のバリアフリー登録加盟店が少ないように思う。今年度は1店舗増えているが、もっと増えるような取り組みが必要ではないか。

(事務局)

ボランティアキャンプのご紹介をいただいた。障がい者差別解消等の共生社会を作るための取り組みとして、情報収集し、把握に努めていきたい。

高校生の進学先について、各高校で把握されているが、市側では情報を取ることが難しいと聞いている。県では、将来、県外に進学した学生が県内に就職し、戻ってきてもらう取り組みとして、県内企業の就職先の紹介等案内をお送りし情報提供等行っていると聞いている。以前本市でも一緒にお知らせをお送りした取り組みもしていた。ダイレクトにつながるの難しいが、本市では、副市長、酒田の企業等も交えながら、進学等で上京した学生や首都圏在住の酒田出身者等がふらっと集いつながる語り場を東京で、今年度数回開催している。その中で、酒田市の状況をお伝えしながら、福祉というところに直接つながらないかもしれないが、酒田市に戻ってくることも選択肢として考えてもらう、酒田市と何かしら関わってもらう、緩いつながりではあるが、そのような事業を行っている。進学状況の把握できないところだが、様々な取り組みの中でつながっていきたいと考えている。

また、心のバリアフリー登録加盟店数は少し少ないと思うので、こちらの方からの働きかけも、積極的に行うようにしていきたい。

(会長)

小・中学生年代での経験が、後々影響してくることもあると思う。新しい事業を始めるというより、既存の事業の中に、委員が今おっしゃったような市内の障がい福祉関係の施設と連携するなど、既存の事業をもっと良くしていくという視点であれば、すぐに取り組めるのではと感じた。既存の事業を、職場体験に協力してくれる施設等があれば連携するなどして、人手不足のなか、将来の労働力は絶対必要だと思う。

(委員)

関連して、小・中学生の体験の機会や取り組みとして、中学校では、学校の中で職場体験に取り組める県の事業「ワクワクワーク」を活用して、校内で様々な職種の職場体験を行っている。その中に、福祉的な職業体験も含まれている。また、小学校では総合的な学習の時間で、特定の学年が福祉をテーマ

にやっているところが多い。具体的には、学区にある施設に行き、作業や一緒に活動したり、そのような体験をしたりしているところが多い。お話にもあったが、実際に体験をして、その中で学んでいく、感じていくということが大事なのかと思う。一方、ボランティアキャンプは、地域主体だと思うが、じっくり1つのことに自分のペースで関われるので、学校で学ぶ部分とは違う要素があると感じており、大変良い取り組みだと思う。今後もキャリア、あるいは総合的な学習の中で学びの中で、ボランティアキャンプのこともお聞きしながら、紹介していきたい。

(健康福祉部長)

小・中・高・大学生から福祉の体験や経験を積んでいただくことは、将来、福祉や医療関係の仕事に就くことに繋がっていくというように思っている。

また、市の看護専門学校生徒が少なくなっている。県内でも2次募集しているところも多いと聞いている。地元で養成し、地元就職してもらうように、高校に進路の状況などヒアリングをして、状況を把握することが必要だと検討しているところである。看護、福祉関係の方も人材の確保が課題になっている。傾向等を情報が得られれば共有させていただきたいと思う。

7. その他 (情報交換)

(委員) 精神・発達障害者しごとサポーター養成講座について

精神障がいと発達障がいの違い、指示や声をかけるときにどのような配慮をしたらいいかなど、わかりやすく説明させていただいている。就職活動されている方は、精神・発達障がいの方が圧倒的に多くなっている。入社後の不安材料があり、断られるケースが多く見受けられる。

酒田管内の事業所様の理解がもっと進むように、今回初めて開催をさせていただくことになった。皆さまからもご協力をお願いしたい。

8. 閉 会